

2.6 The Netherlands オランダ



地図は、http://europa.eu.int/abc/maps/members/neth_en.htm を元に作成

正式国名：オランダ王国 Kingdom of the Netherlands

1. 面積	41,864km ²
2. 人口	1,620 万人
3. 首都	アムステルダム

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/netherlands/data.html>

国の言語、使用状況

1. 国語 オランダ語
2. 公用語 オランダ語

2.6.1 オランダの教育制度

義務教育	年齢	高等	5				
			4				
			3				
			2				
			1	博士課程			
	21/22	教育	4	VWO			
	20/21		3	大学	HBO		
	19/20		2	修士1年	高等職業専門学校	MBO	LBO
	18/19		1	学士3年	4年	中等職業	職業
						専門学校	見習い
					2～4年	1～4年	
	17/18	中等教育	6	VWO			
	16/17		5	大学進学コース	HAVO		
	15/16		4	6年	シニア一般コース	VMBO	
	14/15		3		5年	職業準備コース	
	13/14		2			4年	
	12/13		1				
	11/12	初等教育	8				
	10/11		7				
	9/10		6				
8/9	5						
7/8	4						
6/7	3						
5/6	2						
5	1						
4	Senior infants						

2.6.1.1 教育制度

	行政管轄 (国、州、市町村)	年齢 / 年数 義務	授業料 公的助成制度	就学 / 在学・ 進学率	学期制度 (年度) 各休みの長さ (公立校)
初等教育	公立：市町村当局 私立：学校理事会	4～12歳 (4歳児は義務ではない)	公立校は基本的に授業料無し。 私立校についてはその一部を文部省が補助している。	ほぼ全員	1日の授業時間は最高5時間 学年は8/1から翌年7/31 休みは平均して1年10週
中等教育	国と州 3種類ある VWO (大学進学コース) 6年制 HAVO (シニア一般コース) 5年制 VWB (職業準備コース) 4年制	12～18歳 (16歳までは義務教育)	16歳から授業料を納める。	内訳 大学進学中等教育 10% シニア一般コース 30% 職業準備コース 60%	平均して1年に12週
高等教育	国と州 4種類 WOは日本の大学にあたる。 HBOは4年間の高等職業専門学校。 MBO、LBOはそれぞれ2年から4年の中等職業専門学校で、1年から4年の職業見習い制度。	18歳～	奨学金制度はある。		平均して1年に15週

2.6.1.2 統一／全国カリキュラム、試験制度

	統一カリキュラムの有無、管理	試験制度・評価制度
初等教育	全国统一カリキュラムではあるが、教科書は各学校が自由に選択し、使用している。	試験は第8年生の時のCITOと呼ばれる全国共通学力テスト(オランダ語、算数、一般知識)が中等教育に進む際の目安となる。初等教育以降のコースの選択は共通学力テストの結果を基にして、本人と保護者、教員による話し合いの結果、行う。このテストは義務ではないが、60%以上の学校が参加する。

中等教育	オランダ教育・文化・科学省 (Ministerie van Onderwijs, Cultuur en Wetenschap: OC&W) は 1993 年以降 5 年ごとに中等教育の教育制度を改革し、履修科目やコースの再編などの見直しを行っている。「基礎中等教育」とされる中等教育の最初の 3 年間は、15 の必修科目が定められている。	それぞれの教育コースで最終試験がある 校内試験と全国統一試験の 2 種類の試験結果を基に、卒業判定・高等教育機関への進学が決定される。校内試験は口頭試験と筆記試験、全国統一試験は筆記試験である。例えば大学進学コースの試験科目はオランダ語、フランス語、ドイツ語、地理、歴史、経済、数学、生物、科学の中から 8 科目を選択し、合計 6 科目の試験に合格することが必要である。また、校内の外国語の口頭試験 (英語、フランス語、ドイツ語) に関しては CITO (Central Institution for Test Development) という機関が全国共通のテストを作成している。このテストの評価には CEF 参照レベルが応用されている、(教育・文化・科学省による)。
高等教育 (BA、MA、PhD)	各大学で独自のカリキュラムを持っている。	各大学独自の方式で行う。

2.6.1.3 大学入学方法

大学進学中等教育修了者は最終試験に合格すれば希望大学に願書を送る。医学などのように人気の高い学部によっては、卒業試験の点数の高いものから入学を許可されることもある。高等職業専門学校コースに行った学生も編入試験に合格すれば大学進学の道が開ける。

2.6.1.4 最近の教育に関しての一般的動向

<p>a) 就学・進学率に関して 政府は不況の折、若者にできるだけ教育のチャンスを与えるよう、また若者にもできるだけそういった機会を生かすよう奨励している。最近では高等教育を受ける者の間でフルタイムが減り、パートタイムが増えている傾向が見られる。</p>
<p>b) 水準に関して オランダの初等・中等学校は生徒に留年や退学をさせることができるので、その結果初等・中等教育での学生の落第が問題となっている。</p>
<p>c) 履修科目に関して 最近の傾向として、生徒が自由に学習する時間を組み入れている中等教育機関が増えている。例えば学校によってはカリキュラム全体の 20% を自由に学習できるようにしているところもある。各教室に担当教員が 1 人おり、生徒はどの教室に行ってもよく、各自が選択した教科書を学習する、という形をとる。効果は上がっている、という評価が教師からは出ている。</p>
<p>d) 試験制度に関して CITO テストの結果の平均点が上がり、毎年より多くの小学生が一般中等教育、大学進学中等教育に行く機会を得ている。一方ではテストが簡単だと言う教育関係者からの意見も出ている。</p>
<p>e) 財政に関して オランダの教育予算は全予算の 18% (日本は 97 年の時点で 7.9%) である。しかし、不況の折全体的に見て教育関係の予算が削られている。</p>
<p>f) 教師、教員に関して 小中学校に関しては 5 年前から教師不足が深刻な問題となり、週 4 日教育実施も国会で深刻に討議されている。</p>

g) ヨーロッパ内の移動に関して

ロッテルダムなど移民の多い町では初等教育でバイリンガル教育を今年度から採用し始めている。また、さまざまな留学システム（1.1 参照）を通して、英国へ行く、あるいはスペイン、フランスから入って来る学生が増えている。このような状況に合わせて、外国の修了証書、単位修了証明の判定をする機関が1994年に設けられた。書類を提出すると6週間以内に判定が出ることになっている。

h) その他

ICT の利用を奨励している。1997年よりオランダ文部省の主導と資金により全教育機関のインフラ構築が行われ、現在どの学校にもコンピュータや、周辺機器のハード、教育関連のソフトが導入されている。98%の学校はケーブル形式を主としたインターネットに接続されている。2001年の時点で生徒8人にコンピュータ1台という状況が達成された。ただし、問題も多く、コンピュータの知識不足によるシステム管理の困難、コンピュータを用いた授業を展開するにあたっての教師の知識、経験不足、使用教材にあったソフトの開発をいかに行うか、が問題としてあがっている。教育機関の連帯促進など、さまざまな具体的な解決法を現在模索中である。

2.6.2 言語教育**2.6.2.1 CEF に関して****a) 外国語教育政策に CEF が取り入れられているか。何かの公式な文書に触れているか。**

2004年12月の時点では、公式文書として CEF 取り入れを促進した内容を含んだものは、存在しない。ただし、オランダ教育・文化・科学省は現在、外国語教育の質の向上を目的とした政策を開発中であり、それはヨーロッパ内での言語教育促進の動きと連動している。目的遂行のため、NaB-MVT (National Bureau of Modern Foreign Languages : 国立現代語局) が2003年より任ざられて、以下のような計画で、関係者と共に調査、研究活動を行ってきている。

2003 年前期・現状把握

- ・入手したデータの分析
- ・教育関係者との討議や対話を通しての課題の発展

2003 年終わり

- ・それぞれの活動の検証

2004 年 5 月

- ・上記の調査結果の出版

2004 ~ 2007 年

- ・教育関係者との協力により、具体的な外国語教育の質の向上のためのプロジェクトをおこし、実施する。また、プロジェクト結果の普及。

上記の一連の動きの中で、「討議や対話における課題」のトピックは、大きく3分野に分けられる：言語教育を取り巻く環境、オランダにおける言語教育の質、言語教育に用いられる手段である。その「言語教育を取り巻く環境」という項目には The Netherlands in Europe (ヨーロッパにおけるオランダ) として、最低2か国の外国語でコミュニケーションがとれるようにすること、早期外国語教育、バルセロナ指針について触れている。また、Europe for the Netherlands (オランダのためのヨーロッパ) として、CEF、ELP そして DIALANG が取り上げられている。

第1段階の調査結果は、2004年5月に “Vreemdetalenonderwijs in Nederland. Een situatieschets” (Foreign language education in the Netherlands : オランダにおける外国語教育) として公開された。この報告書は NaB-MVT の依頼で、大学、機関関係者複数名が執筆し、P. Ede-lenbos と J.H.A.L.de Jong 氏が代表で内容をまとめた。また、2003年から、オランダ教育・文化・科学省の支援により、オランダ CEF 構築プロジェクト (The Dutch Construct Project) が始められた (1.3 参照)。

b) 実際に CEF がレベル記述、評価、シラバスなどに取り入れられているか。

外国人のためのオランダ語全国共通試験の判断基準に CEF が取り入れられている。その他、高等教育の学科において、到達目標として取り入れている所もある。

e) 最近の動向

言語教育関係者に、CEFを知ってもらい、慣れてもらうことを目的とした集りが開かれている。CEFをいかに使っていくか、現存する評価とどう対応させていくか、という点は、研究、調査の段階である。今後、調査が続けられるにつれて、機関間の評価の互換性が、議論の中心となっていくであろう。

2.6.2.2 ELP に関して

a) 外国語教育政策に ELP が取り入れられているか。何かの公式な文書に触れているか。

公式な文書に触れてはいないが、政府の機関である NaB-MVT が、いろいろな機関との協力で 2001 年から力を入れて、開発に臨んでいる。5 種類のポートフォリオの作成が、プロジェクトとして行われてきており、そのいくつかはダウンロードができる。また、デジタル化されたポートフォリオも完成している。

b) 実際に ELP が学習、評価などに取り入れられているか。

現時点（2004 年 12 月現在）では、ELP は主として初等、中等教育と職業訓練校用に開発が進められて来ている。ELP の取り入れは、試験校と指定された学校で行われている。高等教育で ELP を試験的に使用しているのは、主に、Universities of Professional Education (UPE's, Hogescholen) である。特に Language Portfolio が有効ではないか、と見られている。2004 年 9 月から Honzehogeshcool Groningen が Language Portfolio を試験的に取り入れはじめている。その他、Saxon Hogeschool などの 4 校も、2004 年から ELP の試験的に取り入れ、その経過を調査している。また、アムステルダム大学では、デジタル化された ELP を 2005 年から試験的に使用することを検討している。

e) 最近の動向

中等教育の英語の教師を中心に ELP 導入に対する動きがあり、それは徐々に高等教育に広がりがつつある。一方で、関係者はよくいろいろ知っているが、試験的に ELP を使用していない学校の教師は、ELP の存在すら知らない、という場合もあり、導入には学校間で差があることが目立つ。

2.6.2.3 初等教育での言語教育

- ・初等教育の最後の 2 年間、英語教育が外国語教育として行われる。
- ・履修年数は 2 年間で週 2 時間の履修となる。
- ・方針の一つにクラスの大きさを押さえて、質をあげる、というのがある。
- ・ICT は初等教育の言語教育において大きな位置を占める、というのが教育・文化・科学省の見方である
- ・早期から外国語教育をする、というのも一つの大きな指針だと言える。

2.6.2.4 中等教育における言語教育

- ・大学進学中等教育ではオランダ語、英語については 6 年間、フランス語、ドイツ語は 4 年間の履修が義務付けられている。
- ・一般中等教育では英語（5 年間）ドイツ語、フランス語（それぞれ 3 年間）の履修が義務付けられている。また、卒業のための試験科目の一つが英語であるので、英語教育のレベルは高い。
- ・国民の英語力が高い理由の一つに英国や米国から英語のテレビ番組が大量に入ってくることが挙げられる。よって、中等教育であっても授業はすべて英語で行われることが多い。
- ・学校によって違うがギムナジウムではギリシャ語やラテン語の履修がある。
- ・学校によってスペイン語、イタリア語の履修も可能である。

2.6.2.5 その他の教育現場での言語教育

a) 履修可能言語

成人教育で言語教育は盛んに行われている。特に、ヨーロッパ言語は、私設の学校や大学に付属した言語センターなどで、簡単に履修できる。また、外国人を対象とした第2言語としてのオランダ語の授業も盛んに行われている。

b) 達成目標、基準、試験

特に第2言語としてのオランダ語の授業では、CEFの基準が用いられている。オランダ語の公的試験にも、同様の基準が用いられている。

2.6.2.6 (語学) 教育の公的制度：資格認定、養成、研修

初等教育・中等教育：教員免許が必要。

オランダ外の機関で免許・ディプロマを取得した場合は、所定の書類・資料を IB-Group (Informational Management Group) に提出してオランダの認可を受けなければならない。

2.6.3 日本語教育

2.6.3.1 最近の動向

日本語関係の講座、学部は閉鎖、縮小される傾向が見られる。縮小の理由として、日本経済の後退から、今後関係を重視するアジアの国が、例えば中国などによって変わって来ている、ということがある。また、BA-MA 導入による影響も見られる (2.6.5 参照)。

2.6.3.2 日本語教師の団体

無し

2.6.3.3 日本語の教員

	資格・背景	地位／処遇	日本語教員養成・研修
初等	該当せず		該当せず
中等	該当せず		該当せず
高等	決まった資格というものは存在していない。背景もさまざま。大学ポストの場合は、一般公募。		
その他 成人	上記同様、決まった資格というものは存在していない。日本語教師の団体が存在していないため、日本語を教えたいというニーズと日本語を学びたいというニーズが1か所に集っていない。よって、日本語教師教員としての採用は、教師としての資格、経験の保持もさることながら、人脈や偶然によることも多い。		

2.6.3.4 その他

	制度／機関	期 間	資 金
日本留学	文部科学省奨学金制度	2年間	文部科学省 の規定する 奨学金
	Hogeschool Rotterdam	1学期	
日本との 交流	高校生対象のロータリークラブの交換プログラム	1年間	日本ロータ リークラブ
	姉妹校より留学生が来ることがある（例 Nijmegen 大学と立教大学）	1年間	

2.6.3.5 日本語教育における問題点、要望、今後の展望

近年、オランダにおける日本語教育は、予算を削られる方向に進んでいる。グローニンゲン大学の日本センター開設があったものの、日本語教育機関が閉鎖される、あるいは縮小されるものの方が数が多い。オランダ国内の日本語教育機関は80年代の一大ブームの後、日本のバブルがはじけた90年代から徐々に入学生数が減っている。21世紀に入ってから毎年40人ぐらいが定期的に入学している。必要とされる教員の数、学生の語学の時間数、など考えても、日本語教育における不安定要素は多い。昨今、需要が減り、教育機関が削減されたことで、従来の大学の伝統的な価値観のもと、学者養成の為の高等教育機関が、日本語の唯一の日本語教育機関となっている。将来的に、日本語に興味のある人のための教育機関が中・高等教育レベルでいくつかでき、お互いに協力、情報交換などしながら、伸びていく環境ができていくことを希望する。

2.6.4 情報源

教育政策について

- ・教育省 Ministry of OC&W. (2003) Education---Facts and Figures 2003.
<http://www.minocw.nl/english/toschool/index.html> (2004年12月5日現在)

IT教育について

- ・近藤 (2003) オランダのIT教育
<http://jp.getronics.com/today/its/ITeducation.htm> (2004年12月5日現在)

外国語教育について

- ・村上、今井、杉浦、田中、高島 (2004) 「日本のEFL環境での英語教育の改善を考える」『Step 英語情報 34号』30-35頁
- ・近藤、浦川、中川、中原 (2002) 「オランダの社会・言語事情と職業教育」『岩国短期大学紀要 30巻』51-71頁
- ・van Essen (2004) Language teacher training and bilingual education in the Netherlands
<http://www.fu-berlin.de/tup1/sp6NatRepNL> (2004年7月5日現在)
- ・“Vreemdetalenonderwijs in Nederland. Een situatieschets” (Foreign language education in the Netherlands : オランダにおける外国語教育) がダウンロードできる。

<http://www.werkplaatstalen.nl> (2004年12月5日現在)

CEF について

- ・2004年6月11日にライデン大学文学部主催で開かれた CEF 集会に関して
http://www.let.leidenuniv.nl/forum/04_3/onderwijs/4.htm (2004年12月5日現在)

ELP について

- ・ELP のオランダ語のサイト。基本的な情報が得られる。
<http://www.europeestaalportfolio.nl> (2004年12月5日現在)
- ・ELP のオランダ語のサイト。現在、オランダで開発中、あるいはダウンロードが可能なポートフォリオがまとめてある。
<http://www.taalportfolio.nl> (2004年12月5日現在)
- ・職業訓練校のためのデジタル化された、ポートフォリオ（英語版とオランダ語版）がダウンロードできるようになっているサイト。
http://trefpunttalen.kennisnet.nl/taalportfolio_bve (2004年12月5日現在)

2.6.5

教育改革の影響、CEF 導入に関する動き：ライデン大学を例として

クラフト増井良子、コスラ恭子、吉岡慶子

オランダにおいては、初等・中等レベルにおける外国語教育のカリキュラムに日本語が取り入れられていない。日本語を教えている国の教育機関は高等教育レベルのみとなっている。本稿では、その高等教育機関の中で唯一日本語学科が存在するライデン大学を例に、オランダにおける教育改革の影響、および CEF 導入の動きを、日本語教育も視野に入れながら考察を試みることにする。

1. BaMa 制度改革の影響について

ライデン大学文学部日本語学科において、ボローニャ・プロセスの一環として Bachelor 3年、Master 2年の2サイクル制、略して BaMa 制度は 2002 年の 9 月から導入された。そして、2002 年に新規入学した学生が卒業する 2005 年から、新制度における Master（修士コース）が始まる予定である。Master には、1 年間、2 年間（留学を除く）の 2 種類のコースが考えられているが（次ページ参照）、その 2 年のコースを学生が卒業する 2007 年夏に、BaMa 制導入が完了することとなる。BaMa 制度導入の影響として、単位の数え方、履修内容、時間数に変化が見られる。BaMa 制度導入と同時に、それまで使われていた単位制度が、ECTS（ヨーロッパ単位相互認定制度）となった。ライデン大学のホームページには ECTS 導入理由として、ヨーロッパ内での履修単位の透明化のためであると書かれている。1 ECTS は従来の 0.7 単位にあたり、28 時間の学習時間を表すとされている。学士号取得のための必要単位 60 単位×3 年間の合計 180 ECTS であり、修士号取得には 60 または 120 単位が必要である。

BaMa 制度導入により、具体的にどのような変化があったのかを見るため、例として 1996 年度の日本語学科 1 年生の履修要項と、2004 年度の履修要項を、比較して表 1 に示した。

1996 年度の履修要項では、前期の初め 7 週間で履修するというような科目もあったため、前期、後期というはっきりした分け方をせず、一年間で履修する科目が載っている。日本語学習に関しては、1996 年度では、1 年生の「会話」のクラスは通年で 6 単位である。これを ECTS に換算すると 8.52 ECTS となる。一方、2004 年度の履修要項によると、「会話」は前期、後期共に 4 ECTS なので、通年で 8 ECTS である。その差の 0.52 ECTS を学習時間に換算すると、約 14.5 時間となり、BaMa 制度導入後の方が、導入前より履修者の学習時間が減っていることが分かる。また、文法や書き方の授業にも同様の傾向がみられる。この語学力の定着に割り振る履修時間の減少傾向は、2、3 年生にも見られる。特に、今までの 4 年生（つまり、BaMa 導入以前の修士課程）で教えられていた会話の授業に関しては、時間数が取れなくなったという影響が見られる。

表 1 学部 1 年生の履修内容と単位の比較 (ライデン大学履修要項より)

1996 年度 前後期	単位
会話	6
書き取り	2
書き方入門	1
文法	4
現代文講読	12
漢字テスト	2
近世以前日本史	3
近・現代史	3
日本文化論	3
小論文	3
一般教養	3
合計	42

2004 年度 前期	ECTS
現代文講読 I	8.0
会話 I	4.0
文法 I	2.0
書き方	2.0
近世以前日本史	4.0
専門科目 I	4.0
日本文化論	4.0

2004 年度 後期	ECTS
現代文講読 II	12.0
会話 II	4.0
文法 II	2.0
書き方	2.0
近・現代史	4.0
専門科目 II	4.0
21 世紀の日本	4.0
前期後期合計	60

筆者の一人¹はライデン大学文学部日本語学科のボート主任教授に BaMa 制度改革と問題点について 6 月 22 日にインタビューした。その要点を以下に述べる。

- ・ BaMa 制度のコースでは、学生の学術知識を広めるために、できるだけ多くの特別講義と研修科目を設けようという考えの下に、今までの専門科目、つまり日本語学科の場合は日本語の授業が少なくなった。そして、それに代わる一般教養科目として、たとえば東アジア宗教学が、日本の宗教、中国の宗教、韓国の宗教とともに、地域学のなかの宗教学として履修できることとなった。この結果、興味のある学生は、より広い知識が得られるようになった。一方、日本語や中国語、アラビア語は、ヨーロッパの学生にとっては馴染みの無い言葉なので、もっと専門語を勉強する時間を確保したい、という希望がそれぞれの学科の教授陣から出され、大学側に提示されたが、これは残念ながら却下されたことは問題である。
- ・ 問題は今まで 20 年間の経験をもとに 4 年間の修士コースとして確立されてきたコースのうち、専門の日本語の授業が少なくなるので、3 年間の Bachelor コースの後で以前と同じレベルの学生を Master コースに送れるかどうかかなり疑問が残ることである。
- ・ Master コースは、日本語学科の場合、1 年間（留学を除く）の一般コースと 2 年間（留学を除く）の研究者養成コースに分かれる。一般コースは、学士の講座を卒業した学生であれば、希望者は全て進学できることになっている。内容としては、1 年は留学、1 年は自分の専攻分野の授業やゼミ出席と修士論文作成になっている。研究者養成コースは、大学の研究者養成コース委員会の選考に合格した学生のみ履修が可能で、基本的には、博士課程に進む学者養成のコースと言ってもよい。専攻分野の研究を 1 年間ライデン大学で行

¹ 第二執筆者のコスラ恭子が行った

った後、留学し、修士論文を作成するという流れになっている。

- ・ Master コースは専門性を伸ばす目的のもとに作られ、それ故、文学部外国語学科の場合、それぞれの専門としている言語が使われている国への1年間の留学がコースに含まれる。学生は奨学金をもらい、日本の大学で単位を取得することになっている。だが、ライデン大学の場合、まだこの留学に対する財政面での確保はできていない。また、教育省は、今のところ Master コースに進む学生は学部卒業生の4分の1との推定に基づいて、奨学金を用意しているが、修士コースに行きたい学生が予想を上回る場合の対策は、現時点では採られていない。

2. ライデン大学文学部における CEF 導入の動き

次に、CEF 導入の動きを日本語教育の関わりも含めて取り上げたい。オランダでは、高等教育において CEF を導入するかどうかについて触れた公文書は発表されていない。CEF を大学全体で導入するかどうかは各大学の言語政策に基づいている。ライデン大学においては、現時点で大学レベルでの動きは特に無く（ライデン大学文学部の H.G.Slings、A.Corda 両氏による）、CEF の導入は各学部には任された状況である。多くの外国語学科が属する文学部では、BaMa 制度導入の動きが始まった2001年より CEF の導入を積極的にすすめている。この動きに合わせて、ヨーロッパ言語の学科では、達成レベルを、CEF の枠に合わせて提示している所もある。例えば、フランス語学科の1年生の履修要覧には、1年後のスキル別の到達目標が以下のように定められている。

表2 フランス語学科1年目の到達目標²

スキル	CEF 参照レベル
聞くこと	B2
読むこと	B2
やり取り（話すこと）	A2
表現（話すこと）	A2
書くこと	A2

学部主導の CEF 導入に関わっているのは、文学部の職員が数名と、オランダ語学科の教員が数名である。年に数回、学部関係者と希望者を集めて、会合を開いてきている。2004年6月11日、文学部主催の学内語学教師のために行われた CEF に関する集會に筆者の一人³が参加した。以下はその報告である。

まず、集會の前半では CEF に関する説明が行われ、後半では出席者（20人）が3グループになり各室に分かれて、オランダ語初級（290時間既習）の話し方試験のデモンストレーション・ビデオを見た。グループ分けは、オランダ語の教師、それ以外のヨーロッパ語教師、そして非ヨーロッパ語教師に分かれ、各教師が実際に CEF チャートを使って、受験者のレベルを計った。結果としては、9割の人が同じ判定結果を示し、基準の有効性が示された。次に、CEF についてのライデン大学での問題点を挙げる。

² <http://www.studiegids.leidenuniv.nl/index.php3?m=486&c=300&garb=0.12366819907982485>

³ 第一執筆者のクラフト増井良子が参加した

- ・実際にほとんどの言語学部では、多かれ少なかれ CEF に則った語学教育を行っているが、統一されたものではなく、今一步の前進、具体化が望まれているのが現状である。
- ・日本語、中国語、アフリカ系言語学部等は CEF 導入自体に乗り気ではない。日本語に関しては、国際的に認められている日本語能力試験がすでにあることが一つある。また、ヨーロッパ言語と同じレベルまで到達目標を設定するのは無理である、という直接的な言語学的理由の他に、目標達成は難しく、できなかった場合、その責任に対する批判が教師および学部管理者に及ぶから、という間接的な理由もある。さらに、例えばラテン語などの古典的な言語には CEF を使用できないこともある。
- ・学部によっては、CEF の記述の一部だけを取り入れているところもある。
- ・学生に対する CEF についての情報提供が不十分である。学部案内の中にもほとんど書かれていない。
- ・CEF はコミュニケーション重視のため、読解や聴解の評価が欠如している。

CEF は、第 2 言語としてのオランダ語能力の判定には、全国規模で導入されているが、どこまで他の外国語教育に応用していけるのか、まだ十分判明されていない。また、初等、中等教育での日本語教育がないオランダにおいて、どこまで日本語能力評価の透明化を図るために、CEF が積極的に導入され得るのか、あるいは導入されるべきなのかの検討をまず始めなければならないだろう。一方、日本語力習得のための時間数が大学制度改革によって減っていく中、学生の日本語のレベルをどのように維持していくか、という問題も残っている。教育改革、CEF の導入の成果を見るには、時間がかかると思われる。

参考文献、サイト

Japanse Taal en Cultuure: Studie Gids. (1996). Rijks Universiteit Leiden
ライデン大学 www.studiegids.leidenuniv.nl

フォーラムに関して

ライデン大学 www.let.leidenuniv.nl/forum/04_2/onderwijs